

ミヤマカラスシジミ *Strymonidia mera* (Janson)

【選定理由】

本県では、1974年に豊田市（旧稲武町）で始めて記録された（北原, 1977）。本種は、クロウメモドキ科を食樹とするが本県内では少ないこともあり、産地は豊田市（旧稲武町）東栄町の2地域に局限される。長野県などの分布の南西限となっている。北半球北部に広く分布するカラスシジミ属の県内唯一の種でもある。

近年、本種は、産地の混交林の繁茂により食餌植物の生育不全・枯死などにより、その個体数が激減している。

【形態】

前翅長は18mm程度。色彩は全体に黒褐色で斑紋はない。の色彩は大差ないが、はやや大型、地色は淡色、尾状突起は長い。は前翅前縁に楕円形の顕著な性標を持つが、はこれがない。近似種のカラスシジミ（本県未記録）とは、後翅裏面の白帯が点線状で外縁に平行であること、また、ベニモンカラスシジミ（本県未記録）とは、前翅表面に赤紋がないことで容易に区別できる。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊田市（旧稲武町）東栄町のごく限られた地域に分布する。県内には、食樹のクロウメモドキが少ないので、新産地の発見の可能性は低いと思われる。この2地域以外は未記録となっている。

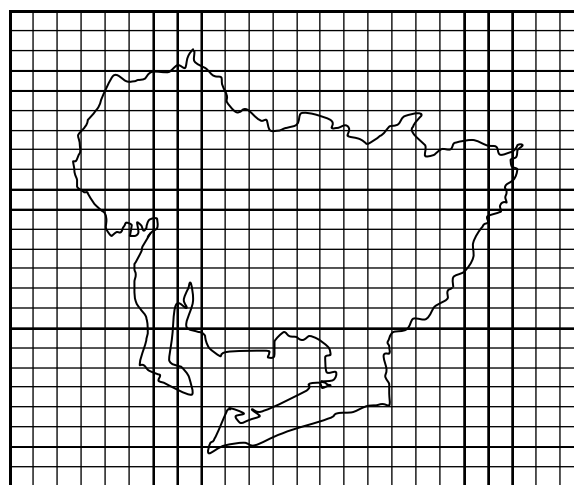
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に分布する。北海道は渡島半島南部にのみ産地が知られている。東北地方より中部地方にかけては各地に産地が多い。近畿地方では伊吹山・藤原岳周辺に分布するが、それより岡山県まで大きな分布空白域がある。四国、九州では高地に分布するが稀である。

【世界の分布】

本種は日本固有種とされている。

県内分布図



【生息地の環境 / 生態的特性】

成虫は年1回7~8月に発生する。低山地~山地の林内の暗い環境を好み、花にもよく集まる。成虫は食餌植物の小枝の分岐部や短枝の基部に1~数個の卵を産み付ける。幼虫の食樹であるクロウメモドキ科の植物が県内では少ないこともあり、産地は局限される。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

近年、生息地の混交林の繁茂が進み、間伐などの定期的な管理が放棄され食樹の生育環境が悪化傾向にある。場所によっては、陽が当たらなくなり枯死する食樹もあり、個体数は激減している。

近隣の産地である三重県藤原岳は、かつて幼虫がたくさん生息していたが、現在では激減している。静岡県の西部からは未記録（諏訪, 2003）になっている。

【保全上の留意点】

食樹であるクロウメモドキ周辺の適度な間伐による日照の確保が早急に必要である。なお、産地がごく限られた地域であるため、採卵・採集の自粛が望まれる。

【引用文献】

北原幹郎, 1977. 愛知県北設楽郡稲武町でミヤマカラスシジミを採集. 佳香蝶, 29 (109): 11.
諏訪哲夫, 2003. 静岡県の蝶類分布目録: 1345. 静岡昆虫同好会, 静岡.

【関連文献】

白水 隆, 2006. ミヤマカラスシジミ. 日本産蝶類標準図鑑: 130-131. 学習研究社, 東京.
巢瀬 司ほか, 2003. 22. 愛知県. 日本産蝶類の衰亡と保護第5集. 日本産蝶類別レッドデータ・リスト(2002年): 82-87. 日本鱗翅学会, 東京.